

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

- 1 傍線部の根拠を、本文中から21文字で抜き出し、最初の3文字を書きましよう。

--	--	--

- 2 旗が揺れる理由で、「風」以外の理由を2つ本文中から抜き出して書きましよう。

--	--

- 3 対称性推論の説明を本文中から解答欄に合わせて40字以内で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましよう。

			～
			こと



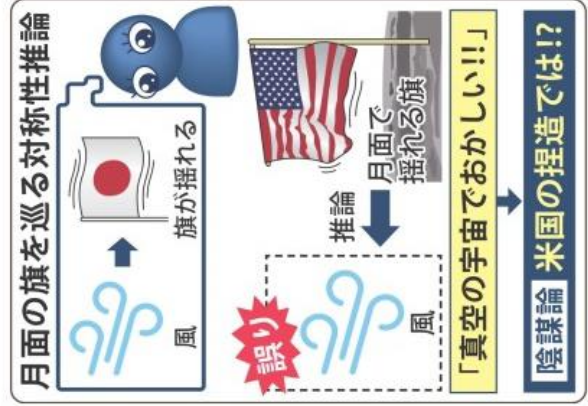
「アポロの月面着陸は捏造だ」という陰謀論を信じている人は、真空の月面上で旗が揺れている映像はおかしいと言います。

真空では風が吹かないはずなのに、風揺れる旗の映像を見れば説明が付きません。何とかして疑問を解消したいと思います。そこで「人工衛星でソ連に先を越されたアメリカは月の有人探査を捏造した」という説明がされたら、なるほど！と思わず納得してしまうかもしれません。

ところが、旗が揺れるのは風が吹いているからと思ひ込むのは、実は論理的には誤りです。なぜなら旗が揺れる物理的な要因は、手で持つて揺らす、物が当たって揺れるなど、風以外にもたくさんあり得るからです。

③ 人間特有の「対称性推論」

認知の省エネ、思い込みにも



けれど、普段から風に揺れる旗を見慣れている私たちは、つい「旗が揺れているのは風が吹いているからだ」と考えてしまうのです。論理的には正しくないのに、どうしても私たちはそのような誤った判断をしてしまうのでしょうか。

そこには「対称性推論」という心の動きがあります。対称性推論とは、リンゴはアップルだと学習できたら、逆にアップルならほりんごだと推測して理解することです。こんなことは当たり前過ぎて心で動きだと意識したことな

いでしょう。

ところがヒト以外の動物は対称性推論ができません。リンゴはアップルだと理解していても、改めて学習しなければアップルはりんごだと推測できないのです。

アポロの月面着陸の映像を見て、旗が揺れているから風が吹いていると思ひ込むのは、人間特有の対称性推論による認知のバイアスです。ではなぜ、私たちは論理的には正しくないにもかかわらずこのような判断をしてしまうのでしょうか。それは認知のバイアスが、現実世界の膨大な



月面に星条旗を立てたアポロ11号のバス・オルドリン宇宙飛行士（1969年7月）（AFP時事）

情報を効率的に処理するために生み出した認知の省エネ対策にもなっているからなのです。

ちなみに映像で旗が揺れている理由は、月面へ軸をねじ込んだ反動で旗が動いたから。真空では空気抵抗がない

ので動きだした旗はなかなか止まらないのです。認知の省エネが引き起す間違った思い込みには気を付けたいものですね。

＝愛知淑徳大教授・久保（川合）南海子＝



くぼ・かわい・なみこ 1974年、東京都生まれ。京都大霊長類研究所研究員や同大こころの未来研究センター助教などを経て現職。専門は心理学、認知科学。主な著書に『「押し」の科学』『イマジナリー・ネガティブ』（いずれも集英社新書）。

- 3 人間が対称性推論をするのは何のためですか。本文中から21文字で抜き出し、最初の3文字を書きましよう。

--	--	--

- 4 月面で旗が揺れている理由を、本文中から50字で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましよう。

			～			
--	--	--	---	--	--	--

NIEワークシートのこたえ（2025年4月21日公開）

◆ワークシート「月面の旗はなぜ揺れる(理科)」

2025.4.19付 夕刊 2面 解答

- 1 真空の
- 2 手で持って揺らす 物が当たって揺れる (順不同)
- 3 リンゴ ～ 解する こと
- 4 現実世
- 5 月面へ ～ らない